

### 第3節 制約の効率

制約の効率とは、相手の構想や着手を積極的に制限することで、形勢を有利にし、勝つ可能性を高める、という意味です。

制約という言葉は、これまであまり使用されてはいませんが、制約と同じ概念を持つ囲碁用語には、「利かす」「攻める」「取らせる」「生き難くさせる」「手残り」「先手」「次の狙い」「相手に響く手」など数多くあります。

これらの言葉の意味はすべて、相手の手を制約する行為によって、利益や損失が生まれることを意味しています。

「制約する」という意味がわかると、難解であった数多くの戦術や戦略の意味が明確にわかるようになります。なぜなら、そこに流れる効率の基本的な考え方は、

法則 効率は、相手の自由性を制約することによって、  
自分の自由性を確保する。

ということだからです。

## 1 制約する効率とは

制約するという価値や効率は、「どこにでも自由に打てる」という囲碁の基本価値に対抗する重要な価値として存在しています。

囲碁の着手効率では、

- ① 自分の確定地をいかにして大きくするか。
- ② 相手の確定地をいかに制限するか。

であることから、このためには

- ③ 相手の勢力地を制限する。
- ④ 自分の勢力地を保有する。
- ⑤ 相手を生き難くする。
- ⑥ 相手から、生き難くされない。

ことが、制約の四大目的になります。

さらに一般の効率の関係では

- ⑦ 相手に、理想形を打たせない。

ことを優先することになります。このことで、形勢が不利にならない状態で、最大争点への戦いの準備が可能になり、その戦いで有利に戦うことで

- ⑧ 「先手」となる権利を獲得する。

ことが可能になります。

## 2 制約の種類と特徴

### (1) 制約の特徴

制約の特徴としては

必然の法則は、勝つための選択方法であるが、  
制約の法則は負けないための選択方法である。

といえます。

## (2) 制約の種類

制約の種類には、「地の制約」「生きの制約」「戦いの制約」「構想の制約」「着手の制約」の5つがあります。この順序で対局に現れます。

## (3) 構想の中心となる2大制約（地の制約と生きの制約）

式1 地の大きさ = 地の可能量 × 確定率

この式は、地の大きさを表す式ですが、

- ① 序盤では、「地の制約」を重視する。
- ② 中盤では、「生きの制約」を重視する。

順序で打たれています。

※ 地の可能量の大きさは、互いに相手の地を制限する、残存量となります。

「地の制約」が可能な場合にはそれに集中し、それができなくなれば「生きの制約」に目標が移動します。最終的に「着手の制約」によって先手の権利が得られ、「確定率」に影響を与えます。

## (4) 地の制約

地の制約では、「相手に地を囲わせないことで、生きられない空間が生まれ、同時に自分の地の可能性を確保する」ことが可能になります。

## (5) 生きの制約

相手の「生きる空間」や「眼形」を奪うことによって、反発を減らせることで自分の生きを高めて、生きやすくなります。

### 地の大きさの式1

この式は、制約の基本条件を表し、囲碁が「相手の地を制約する」ゲームであることを表しています。そして、「地の制約」と「生きの制約」が地の争いの根本にあることを示しています。

地の制約は、「地の可能量」に作用し、「生きの制約」は、確定率に影響します。そのため

- ① 序盤の布石では、地の制約を優勢する
- ② 中盤は、生きの制約を優先する

こととなります。

「生きの制約」によって危険性が増大すると「連続性」、「必然性」が生まれ、この新たな効率によって、地を囲う効率条件が整うため、確定率が一気に大きくなります。

### 「制約」を意識することで生まれる上達効果

制約を重視した考え方の利点として、

- ① 「可能性」「確定性」「危険性」の働きを活用できる。
- ② 最大争点が不明確であっても、制約することで明確になる。
- ③ 次の狙いを、制約の大きさに捉えることができる。
- ④ 複数の同型な形であっても、制約でその差が認識できる。

などがあります。

(6) 構想の制約

「地の制約」と「生きの制約」と同時に相手の理想の構想を阻止することで、自分の構想を優位にすることをいいます。生きる必要がある場合には、相手を攻めることで、自分の生きる目的を達成することになります。

(7) 着手の制約（必然の制約）

石が取られると負けるという必然法則を利用することで、相手の手抜きや反撃を阻止します。

(8) 先手の権利を確保するための制約

効率のいい地を囲うには、相手に邪魔されない条件（着手の制約）が必要になります。なぜなら、自分の地を囲うのに必要な手数より、相手の地を阻止する側の手数が少ないからです。

(9) 自分の制約解除

盤上に一旦置かれた石は、基本的に「無条件に取られてはいけない」という制約がかかっています。この制約を、いかに速く、効率よく解除できるかが、効率になります。

相手からの制約を解除するには、相手の動きによって、自分の石を「捨てる」か完全に「生きる」かによって、相手からの制約の解除になります。

### 制約が生まれる理由

制約が生まれる理由は、必然手の誕生と同じ理由になります。

- ① 自分の大石が取られると負ける。
- ② 相手に大きな地を与えると負ける。
- ③ 相手に理想形を与えると負ける。
- ④ 条件が不十分なのに、相手の石を取ろうとする。
- ⑤ 自分から地を囲おうとする。
- ⑥ 「絡み攻め」「天元の戦い」が必ず発生する。

などがあります。

### 制約のための勉強

囲碁の教材の多くは、実際に起きない問題が多くありますが、これらの知識の活用は、そのまま覚えて使用するためではなく、相手に良い手を打たせないための「制約する知識」として必要になります。

つまり構想や戦略における知識習得の意味は、

- ① 定石、手筋、死活などの知識は、制約する道具である。
- ② 布石は、「地の制約」、「戦いの制約」のパターンである。

ということになります。